

関係者との意見交換において抽出された課題

○閘門・船着き場の利用について

- ・ 舟運の利用者として外国の富裕層を意識すると、急なオーダーへの対応として、船着き場の一時使用、船着場の鍵の貸し借り、観光バスのアクセス等を円滑に行えることが必要。
- ・ 多様な観光商品に対応するため、船着場や閘門の利用可能時間の柔軟な対応、手続きの迅速化が必要。

○船着き場周辺的环境整備について

- ・ トイレ等の船着き場周辺の施設は、快適性・利便性を利用者目線で考えることが必要。
- ・ 船着場は街中から見えず、認知度の向上のためには、例えば花壇等による景観形成やサインの整備が有効。
- ・ 舟運の認知度向上のためには、例えばドローンショー等のイベントの開催が考えられる。

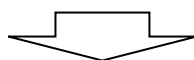
○航路の開設について

- ・ 航路の確保に加え、運航ルートの水位・流速等の安全に関する情報が容易に入手できることが必要。
- ・ 舟運の活性化は水上交通の観点では難しく、水辺のイベントと組み合わせる等により、舟運、水辺に関わる人口を増やすことが必要。
- ・ 定期航路は採算等の課題があり、不定期航路によるイベント運航を考えていく必要がある。

○万博を目前にした取り組みについて

- ・ 沿川のにぎわい創出にあたっては、沿川自治体が同日開催等、連携したイベントを行うことが認知度の向上に繋がる。
- ・ こうしたイベントは大規模になるので、しっかりした支援も必要。

上記の議論において、「①淀川舟運に対する認知度」、「②船着場周辺の施設の利便性」、「③商用運行としての収益性」を主な課題として抽出。



これらの課題に対して、万博開催の機運とあいまって認知度を向上させるため、『河口から宇治までを舟運やアクティビティで繋ぎ、沿川の自治体によるイベントを同日開催とする万博開催記念イベントを社会実験として実施』を提案。